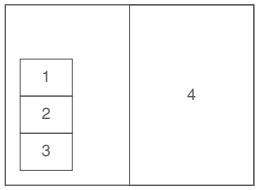
CD 04 099〜102

椿-1【つばき】

■宗教性を帯びたものが多い椿文
■曲折する椿の樹枝も含めて重要な意匠

古人の忌避感をあまり感じさせない椿文様の美

春を待ちこがれる人の心情をそのまま文字に表しているように、春に先駆けて咲く真紅の椿花を見ると、この花のもつ宿命的な禁忌伝承を吹き飛ばす美しさに魅了されます。もっとも、妖しい美しさをもっているところに、反作用を呼び起こす原因があるのかも知れません。



1 漆椀（うるしわん）の椿　CD 04_099
朱漆地に黒漆で描かれた椿の強烈なコントラストに、ある種のメッセージを感じます。

2 棗（なつめ）の椿　CD 04_100
本物は蒔絵ですが、彩色したくなるほど完璧に造形化された単位文です。

3 蒔絵硯箱（まきえすずりばこ）の椿　CD 04_101
可憐な椿の花ですが、樹枝や葉全体でまぎれもない椿の生命力を表現しています。

4 鎌倉彫合子（ごうし）の椿　CD 04_102
妖花と呼ぶにふさわしい表現です。デフォルメの大胆さに見習うべき価値があります。